

# 平成27年度 日本語教育能力検定試験 解答例

千駄ヶ谷日本語教育研究所

## 試験 I

問題1	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
	4	4	5	5	3	2	2	1	4	5
	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					
	2	3	4	5	4					

問題2	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	3	2	3	2	1

問題3	A					B					
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)
	4	2	1	2	1	2	3	1	2	4	1
	C					D					
	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)		
	2	4	2	3	3	2	3	3	4		

問題4	問1	問2	問3	問4	問5
	3	2	1	2	3

問題5	問1	問2	問3	問4	問5
	4	3	2	1	4

問題6	問1	問2	問3	問4	問5
	1	3	2	2	4

問題7	問1	問2	問3	問4	問5
	4	3	2	1	1

問題8	問1	問2	問3	問4	問5
	4	1	3	1	4

問題9	問1	問2	問3	問4	問5
	2	3	2	1	3

問題10	問1	問2	問3	問4	問5
	4	2	1	3	2

問題11	問1	問2	問3	問4	問5
	4	3	4	2	1

問題12	問1	問2	問3	問4	問5
	3	1	3	2	4

問題13	問1	問2	問3	問4	問5
	1	3	4	2	1

問題14	問1	問2	問3	問4	問5
	4	4	2	3	1

問題15	問1	問2	問3	問4	問5
	1	4	3	3	4

## 試験 II … 略

◆ この解答例は千駄ヶ谷日本語教育研究所で作成したもので、検定試験実施団体から公表されたものではありません。

## 試験Ⅲ

問題1	問1	問2	問3	問4	問5
	1	3	1	3	2

問題2	問1	問2	問3	問4	問5
	3	1	2	4	3

問題3	問1	問2	問3	問4	問5
	1	3	4	1	3

問題4	問1	問2	問3	問4	問5
	4	2	4	4	1

問題5	問1	問2	問3	問4	問5
	3	2	4	4	3

問題6	問1	問2	問3	問4	問5
	1	4	2	4	1

問題7	問1	問2	問3	問4	問5
	3	1	1	4	3

問題8	問1	問2	問3	問4	問5
	3	3	4	1	4

問題9	問1	問2	問3	問4	問5
	2	1	4	4	4

問題10	問1	問2	問3	問4	問5
	3	3	3	2	4

問題11	問1	問2	問3	問4	問5
	4	2	3	1	4

問題12	問1	問2	問3	問4	問5
	3	4	3	2	3

問題13	問1	問2	問3	問4	問5
	4	1	2	4	3

問題14	問1	問2	問3	問4	問5
	2	1	1	4	2

問題15	問1	問2	問3	問4	問5
	2	1	2	3	2

問題16	問1	問2	問3	問4	問5
	2	3	1	4	2

◆この解答例は千駄ヶ谷日本語教育研究所で作成したもので、検定試験実施団体から公表されたものではありません。

## 試験Ⅲ

### 問題17

論理的思考能力を高めるには、三つの能力が必要であるとする。一つ目は、論理を構成する主張と根拠に客観的な一貫性があるかを判断する能力である。二つ目は、その論理に対する反論を考える能力である。三つ目は、その根拠から別の主張ができないかを考える能力である。一つ目の能力は、論理を組み立てる能力であり、論理的思考において最も重要である。あとの二つは、論理を多角的に検証する能力である。この検証能力があれば、論理についてより深い考察ができ、論理的思考能力も高まる。

このクラスでは論説文を用いた学習活動をする。学習者は、まず、その論説文の論理に客観的な一貫性があるかを検証する。次に、その論理に対する反論や別の主張を考える。その後、論説文のテーマについて自身の考えをまとめて発表する。クラスメートと教師はその発表に対して論理の観点からフィードバックをする。この活動なら、ディベートで学習者が感じた精神的苦痛はなくなると思う。(407字)

◆この解答例は千駄ヶ谷日本語教育研究所で作成したもので、検定試験実施団体から公表されたものではありません。

### ◆今年度の試験についての感想◆

「謙譲語Ⅰ」、「隣接ペア」、「パラ言語」については、昨年度に引き続き問われた。同じ用語が三つも続けて問われるという傾向は、これまでなかった。ちなみに「隣接ペア」については、本年度の他の問題の問題文にも出てきている。

昨年度は、談話分析・会話分析に関する問題が多く出題されたが、今年度はそのような偏りはなかった。また、試験Ⅲの指導項目の分析および教室活動についての問題は、毎年出題されているが、これは現場の力を問ういい問題である。今年度もそうだった。現職者にとって有利であろう。

しかし、相変わらず専門用語は幅広く数多く出ている。研究者の名前と提唱する理論も出てくる。その量の多さに受験者や受験予定者からため息が出ている。この傾向は今年度も全く変わっていない。